

長崎通信 no. 76

●発行 長崎の証言の会 ●事務局 〒852 長崎市宝栄町 18-4 ☎0958(62)8725

$$\frac{1985}{2.7}$$


被爆四十周年 of

年明けに

今田 斐男

爆死せし父にまみえる顔もなし

無為にすごせし四十年の今

今年こそ核廃絶をと願えども

いよいよはげしき核実験の報

長崎通信No.76内容

- (二面) 秋月会長年頭のあいさつ
- (三面) 被爆四十周年反核への年賀状(六面まで)
- (六面) ケニアとヒロシマ・ナガサキ(杉村房彦)
- (七面) 長崎の証言の会と私(中谷 猛)
- (八面) 新春座談会・被爆四十周年を歴史の転機へ(十一面まで)
- (十一面) 新しい地方委員から
- (十二面) 事務局日誌ほか

「コロント」

ナガサキの証言
合同シンポジウム

— 6月上旬・福岡で開催 —

昨秋11月19日、広島で話合われた「証言」シンポジウム企画は、その後12月26日の福岡・原鶴温泉での福岡被団協役員会での協議を経て、今年6月上旬に福岡で開催する方向で検討されました。

長崎からは鎌田定夫副会長が出席して懇談しましたが、福岡から30名ほどの被爆者が参加できる見通しで、積極的に協賛、会場や宿泊の世話をしたいとのことでした。

上の写真
核実験に抗議する

長崎市民の会が一月六日、今年最初の座りこみ（通算二〇五回）で約六十人が参加しました。こんな座りこみが絶滅することを願いなから、核実験があれば今年も座りこみは続きます。

写真撮影・黒崎晴生（日本リアリズム写真集団長崎支部）

長崎被爆の看板を背負って
大阪市・山科 和子

地方委員としてお役に立つかどうかかわかりませんが、幸い当地の被爆者の会のまとめをしておりますのでご協力したいと存じます。被爆者の方々の悩みや、当時の話を新たにすることもあります。また大阪で戦傷者、空襲被害者の方々と「平和をねがう民衆の会」を作り、毎月第二土曜日、大阪府戦争資料室で語り部活動を行っています。その関係もあり、阪大・教育大・市大・立命館大に折あるごとと呼ばれ、八月に向っては高校中学にまいり、生徒さんと輪になって話しあうこともあります。

82年に国際軍縮総会に参加したおかげで現地運動家の方々と今も文通しており、私の被爆体験が彼の地方紙にものったとのことでした。こしは40周年、これを一つの区切りにがんばらねばと思っています。とはいえ、私も年を取り、長崎にもなかなか行けぬようになりました。父母弟妹四人がねむる長崎です。長崎被爆の看板を背負って生きている私にできることがあります。はと、記事を送ることにします。



入退院をくり返しながら
大阪市・寺田寿々子

新年を迎えましたが、年末の12月28日から入院しています。

主人は88才、私は72才の高齢となり、昨年、当地の被爆者の会の若い人達に会長をゆずりたいと思いましたが、引受ける人がなく、一年だけと約束して私が引受けました。しかし、過労のため胃潰瘍になり、2月から4月まで入院、よくならないまま一時退院しました。だが、8月にまた入院、2ヵ月後に退院しました。

しかし、援護法達成までは死ぬに死ねない現状で、主人も百才まで呆きずに生きてほしいと願う今日です。72キロの主人を42キロの私が杖とならねばならず、11月22日、娘が交通事故で入院、やっと最近退院しましたが、私には生き証言としての責任があり、自分の体は自分で守らねばと思って、また年末に入院、安静中です。主人も毎月、足のリハビリに励んでいます。ファイトは若い人々には負けないつもりでも、体がついてゆきません。

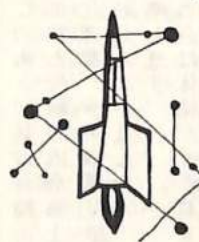
大阪地方委員の仕事は、山科和子さんともよく相談しながら、お引受けさせていただきます。

(寝屋川市)

■「原爆被害者の基本要
求」の普及を

被団協では「ふたたび被爆者をつくるまい」という願いに基づいて昨年十一月、「原爆被害者の基本要求・被爆者の高齢化に伴う現行施策改善要求」を発行しました。これは、「核戦争起こすな、核兵器なくせ」「原爆被害者援護法の即時制定」の二大要求を国民の中心へ広げようとするものです。

今年は被爆四十周年、年ごとに高まる核戦争の危機と被爆者の高齢化という深刻な事態をふまえ、全国的な討議を経て作られたものです。



これは、被爆者の実態・要求が若い世代に忘れられていく状況の中で、貴重な資料です。

価格等は次のとおりです。

- パンフレット（B5判17ページ）
- 一部一五〇円（送料一二〇円）
- リーフレット（B5判8ページ）
- 一部五〇円（送料六〇円）

申し込み先

〒105 港区新橋五―三―一七 久保ビル3F 日本原水爆被害者団体協議会

■カンバありがとうございました
(富山)石崎千鶴子・三百八十円
(東京)宮坂和子・千円、大内要

（東京）宮坂和子・千円、大内要三・五千円、小巻隆・六百三十円、外山雄三・三万円、夜間生活学校・千円、（神奈川）林京子・五千円、妹尾美美子・三千四百円、（愛知）伊藤孝司・千円、（兵庫）井上力・千円、（福岡）森重人・一万円、吉松初子・一万円、阿座上扶美子・二千八百円、荒木良子・千円、（長崎）中村達・二千円、本馬恭子・五千円、鮫島千秋・二千円、宅島房子・千円、清水総・千円、斎藤正雪・千円、山田善子・千円、中村尚達・六千円

■寄贈図書

新人文文学68号69号—大柿侑太郎追悼集（新人文学会）原爆の図なき展記録集（「原爆の図」なき展記録編集委員会）

核実験抗議の座りこみ

12月23日 (二〇四回) ソ連	1月6日 (二〇五回) ソ連
------------------------	----------------------

事務局日誌

証言の会新年会（ながさき荘）
1月6日

実行委員会（長崎珈琲館）

□編集後記 長崎反核平和日誌の掲載が紙数の都合でまだできませんでした。別の機会に。(濱崎)

「世界の冬」を来させてはならない

一九八五年の年頭に当って

長崎の証言の会会長 秋 月 辰 一 郎

年頭に当たって、寒波のスイス・ジュネーブにおける、米ソのシニール国務長官とグロムイコ外相との核廃絶に向けての会談は、久しぶりの明るいホットニュースとして瞬時に世界を駆け巡った。

数年、両核超大国がお互いに不信を投げ合いながら核兵器の拡大を続けていたのでは、世界の与論が許さない。両国もその与論の力を無視できなくなったのである。あるいは無限に続く核競争に怖くなったのかもしれない。

明るいニュースではあったが、この会談がそのまま米ソ両国の核競争を停止せしめ、やがて核廃絶へと簡単に進むはずもない。宇宙核兵器の問題にしてもこの会談で解決するとは考えられない。

私には、米ソ超大国の互いの不信感というより、科学技術の複雑化と進歩がいよいよ人間の理性のコントロールを越えたような不安

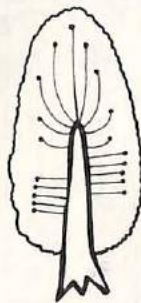
安にかられる。

住井さんが毎日新聞に意味深い随筆をのせておられた。"おくとさん(かまど)の火"のことである。人間のいのちを守り、いかす火(文火)に、私達の祖先、親たちは、正月に鏡餅をおいて祈った。それが人畜を焼き払う残酷なものであるという文である。

今、その武火がスイッチ一つで世界を、現在も未来も破壊する核兵器になったのである。

この武火は、いつの間にか人間の頭脳と技術(掌)の中からはみ出し、すでにコントロールできないものになっている。

そのことをほとんどの人が知らない。人間の技術科学は核兵器の量質手段を、今驚くほど変えている。その進歩の加速は人間の理性と良心のコントロールを越えたようである。



私達は核兵器の怖さ、残虐さを四十年前の経験で知った。そのことを世界のの人に、わけでも指導者にも知ってもらいたかったのである。今年、米ソ核軍縮会談が始められた。シニール国務長官からも窮極の目的は核兵器廃絶という言葉が聞かれた。

しかし、世界の指導者は核兵器の怖さと同時に、も早それが人間(指導者)では押さえることのできないものであると知っているであろうか。

本日の冬、世界の冬がくる。会談は延々と続くであろう。成功はむずかしいようである。それが核の怖さでもある。

秋月辰一郎

おそかりし終戦のみことのりわれよめば 焦土の上の被爆者は哭く

くろずみて教師の息の絶えんとすくすりなきかと妻なきくづる

(「昭和萬葉集 巻七」より)

韓国被爆者訪問団の派遣

13月中旬一週間韓国へ

一九七〇年三月、長崎から葉山利行被災協事務局長ほか五名の在韓被爆者医療調査団が韓国を訪問し、救援と実態調査、証言収集の活動を行ない、在韓被爆者の渡日治療の先鞭をつけた。

今年には被爆四十周年でもあり、最近の韓国被爆者の実情調査と交流、証言記録の取材をかねて、広島と長崎の両証言の会が中心になって企画・訪問します。

広島証言の会からは柴田章子さん、長崎証言の会からは鎌田定夫副会長を中心に準備を進めており、それに名古屋から伊藤孝司さんが参加します。参加希望者は航空運賃と一週間の滞在費を合わせ、最低10万円の準備と旅費が必要で、二月中旬までに事務局まで申込んで下さい。

被爆四十周年・反核への年賀状

今年も事務局や編集部にとくさんの年賀状を頂きました。ここにいくつか紹介します。なお、編集部の一存で省略して掲載している場合がありますのでお断りしておきます。

北海道から

函館市・小名親郎・洋子
昨年八月六日、函館市も「核兵器廃絶・平和都市宣言」をしました。目下「神戸方式」の採用を働きかけ中です。

関東から

町田市・本間淑人・美智子
昨年は核巡航ミサイル・トマホーク配備、原子力核空母カールビンソン入港等ますます核戦争の危機が深まっています。

私たち反核家族は被爆40周年の今年、原水禁84世界大会国際会議で決議された「東京宣言」を力に核兵器全面禁止・被爆者援護法の実現等のためにがんばりたいと思います。今年もよろしく。

八王子市・田中 憲助
年のはじめに、皆様方のご健勝と、平和への展望がすこしでもひらかれることを念じております。昨年三月の退職以来、「通信・ヒロシマ・ナガサキ」被爆体

験を語りつく、八王子から』にとりくみ、いま4号、5号を編集しています。皆様方のご指導ご鞭撻をたまわりながら、小さな歩みをすすめていきたいと考えています。

東京都・江口 保

ことしこそ戦争の犠牲の受忍を断固拒否し、再び核戦争の惨禍を繰り返さないという決意をこめた被爆者援護法を制定するような国づくりを真剣に考える必要があると思っています。私共のヒロシマ修学旅行もお陰様で10年になりました。これからも皆様のところを大切にして、核兵器廃絶への道を歩き続けたいと考えております。

(江東区立上平井中学校)

東久留米市・稲葉喜久子

第二次大戦の戦前よりきびしい戦前の季に、親としてどう生きていくかを子どもたちに問われながら生きています。東京では大空襲四十年記念の取り組みが進んでい

ます。

東京都・東友会

高齢化するわたしども被爆者です。が、残された命を核兵器廃絶と援護法制定のための40周年大運動につくしたいと存じます。

平和をねがっていらっしゃるみなさまの深いご理解と力強いご支援を心よりお願い申し上げます。新年のごあいさついたします。

東京都・おおえ ひで

被爆40周年の記念の作品はまことに荷が重たく、必死の思いで原稿を書きました。一月七日に納稿しました。『長崎の証言』の中の手記をいろいろ参考にさせていだいています。その後四、五日ダウンしてしまい、年賀のご挨拶もおくれてしまいました。いよいよ本年の形になります時には、みなさまのご諒解を得たいと存じています。(児童文学者)

第五福竜丸に新しい航海を!

第五福竜丸平和協会

「……反核を熱く語ってくれた人からは事件が与えた衝撃の大きさを、話すことがないと拒否された人からは事件が残した痕跡の深さを感じた……」ビキニ水爆被災



から30同年にあたり、第五福竜丸乗組員を訪ね語りあった静岡の記者は、「全乗組員の軌跡」と題する長い連載をこしめくくりました。新聞もテレビも新しい角度で福竜丸をとりあげ、多くの人々がさまざまな思いで船を見つめ行動しました。私たちも記念フォーラム、映画会の開催などを行ない、写真集の発刊、資料室の建設などに努めました。

来館者も、11月12日一二一校から一万八千名近い小学生の見学があるなど増加し、開館以来八年半、「早期一〇〇万見学者実現」のなかば50万人をこえました。この中で、年末の展示替には、二〇点余の「乗組員はいま」の組写真を思いをこめて作り、30周年をしめくりました。

85年は被爆40周年。展示館では一年にわたる測量調査と準備を経て、新春早々から船の本格的修理が始まります。船に新しい航海を! ヒロシマ・ナガサキ・ビキニをくりかえすな、原水爆禁止・被爆者援護連帯の輪を一そう大きくしていく決意です。

浦和市・竹花 俊哉
21世紀に生きる証言を

あいかわらず世界は相手の首にナイフを突き付けながら軍縮交渉を行っています。アインシュタインが「われわれが歴史から学んだことは、歴史から何も学ばなかったということだ」と言いましたが全くその通りで、文化や科学が発展する割に人間は成長していません。むしろ科学が進歩する分、危険が増えるようにさえ感じます。もうそろそろ21世紀を意識して新しい次元での考え方が必要となっているのではないのでしょうか。これは平和運動を行っている方にも共通の問題だと思っています。過去の事実を知らせるのは当然ですが、ただ（感情的に）悲憤感を訴えるだけでは説得力が薄れると考えています。生意気なことを書きましたが、これからの平和運動に關して、ぜひともみんなで考えてほしいと思っています。

甲府市・伊東 壮

一粒の麦として

敗戦と被爆から40年、自分が地に印した踏みあとをさらに凝集させるための人生への決意を新にしています。昨秋は在外研究で二カ月間渡欧しました。日本を離れて

新しさを追うに汲々としていた日々を思い、蓄積として何を残すべきかをしめしめと考えました。そして、我々が戦後人生をかけて構築して来た「平和」のいみと、そのために一粒の麦として生きる大切さをかみしめました。（日本被国協代表委員、山梨大学教授）

横浜市・黒川万千代

再び被爆者を作らねばならぬ

昨年十一月、イタリア国営放送に招かれ、P・アンジェラのフィルム構成という番組で証言してきました。イタリアで最も人気があり、また権威あるこの番組で核兵器廃絶の問題を真向からとりあげたことは大層意義あることでした。私達が長い間やってきたことが、今や世界的な広がりとなってきています。その時、視聴者からの電話が鳴りつづけ、その大半は核兵器廃絶を望み、また私への励ましでした。その後レストランで、街頭で、汽車のなかで、帰途の飛行機の中でも人々から激励のあいさつをうけ、私は今さらのように被爆者の生存の意義と責務を考えております。今年もまた平和をめざし、再び被爆者を作らねばならぬ力をつくしたいと存じます。

中国から

徳山市・大賀 和男

転動はつきものとはいえず、三年四カ月は短かすぎました。徳山では街の90%が焼かれた徳山大空襲の記録集をことし七月までに出すため、市民グループの編集委員をして多忙です。こちらも女房も参加しています。（毎日新聞記者）

広島市・季 実根

ヒロシマ・ナガサキを原点に、核兵器や戦争は、もうごめんだと三十九年間も叫び続けてきたはずなのに、われわれの運動が弱かったせいでしょうか。韓国には千余発の核兵器が配備され、ミッドウェイやカールビンソンは大手をふって寄港するようになり、SS20の対抗配備とあわせて極東情勢は一段と厳しくなりました。過ぐる年を深く反省しながら、今年もまた平和であってほしいと願わずにはおれません。（広島朝被協会長）

広島市・深川 宗俊

被爆40年の新年、核戦争を起こさせてはならない決意をあらたにしています。被爆韓国人徴用工を追って12年、政府は国家予算で対馬、玄岐の遺体発掘調査をしました。今年は遺骨送還の年にしたい

もの。なお遺骨の一部からセシウム一三七が検出（12月26日RCCテレビ）されました。『鎮魂の海峡を越えて』（仮題）、被爆時の看護婦の救護記録、定本「深川宗俊歌集」も新年の課題です。

九州から

福岡市・西島 有厚

戦時中の戦争観が再び大手をふってまかり通ろうとしている頃、あの戦争の本質を改めて明かにしていくことが、ますます必要だと思っています。（福岡大学教授）

福岡市・伊藤 普

子や孫にのこすもの

「……原子爆弾の実現したのを機会として、全世界はお互いの間における一切の戦争を永久に終局とせねばならぬ。そして全世界は一致団結して協力し、地球防衛の目標に精進せねばならぬ。……」（海野十三、光一九四五年一〇月）

「科学の精髄——原子爆弾の威力は、それ自身の持つ破壊力の強烈さによって、逆に戦争時代終止へとすべての人類の意見を一致せしめた。……」（栗原唯一、中国文化、一九四六年八月） 敗戦後原爆の威力、広島、長崎の惨状が判るにつれ、多くの人々は前述のような決意と認識をもった。それ

から四十年を経過した。草木も生えぬといわれた原子野には近代的なビルが立ち並び、豊かな商品が溢れている。人々は平和を築き、今の生活に満足している。私たちが子供の頃おじいさんから聞いた遠い昔の露戦争の話や戦争の話、今の子供たちは戦争の話、広島、長崎の原爆の話や戦争の話、海野氏や栗原氏が期待したように、人類はヒロシマ、ナガサキを最後のものにしようとしてはいない。核廃絶の声も高いが、核抑止力を信じている人も多い。

被爆40年、戦争を知らない世代が子供を育てる時代である。被爆体験者はその体験を語りつがねばならない。広島、長崎の記録は若い人の心に刻んで貰わねばならない。教育界における最近の動き——広島、長崎を子供たちに知らせまいとする動き——には十分の注目を怠ってはならない。私たちは核廃絶、戦争時代終止を子供に残さねばならない。被爆40年に当たり再び気持ちを新たにす。

福岡県被団協事務局長、久留米工専教授）

福岡市・吉崎 幸恵

証言の会への入会のおさそいを

熊本市・野中 勝美
非核熊本市宣言の大運動に今年こそ、私達の悲願である「原爆被爆者援護法」をかちとり「核兵器廃絶」の運動を強力に展開しようと考えているところだ。日本被団協とともに熊本市でも被爆40周年にむけての取組みをよめます。核戦争阻止・核兵器完全禁止・被爆者援護法の制定をめざす「全国行脚」が三月から開始されますが、熊本市の取組みをどうするか、緊急に協議をはじめます。昨年九月に始まった「非核熊本市宣言」の大運動は、県下のあらゆる階層の方に一万余名が参加となり、私が本部実行委員長となつて、三万六千二百九十五人の署名を集め、県議会に提出・請願を行いました。残念ながら採決に至らず継続審査となりましたが、この大量の署名は県民の声として、「非核の風」が吹きまくり、矢部町が「非核町宣言」をし、他の市町村でも大きな関心事となってきたことは大きな収穫でした。（熊本市被爆者の会事務局長）

水俣市・砂田 明

原爆・敗戦・飢えからの40年目を、たまふりの年に！ 昨秋は「鎮魂歌」の長崎初演に絶大な尽力を賜り有難く存じます。チンコンとはタマフリ。生者の魂をふるい立たせるものです。長崎の出演者や観客から、「生涯忘れない」「もういっぺん長崎へ」

などの賀状を賜りました。「爆心地公園に母子像を」というアピールも「長崎通信」に見え、心強く思っています。2/10、2/11に人吉市「長崎物語」の作者の故郷）3/28丸木美術館、4/12、4/13はヒロシマでの上演が決まっています。芝居と並行して、ひろく全国有志からもカンパをつもり、広島と長崎にお届けします。どうぞ長崎の皆さんも物心両面でご協同下さいますよう、お願いいたします。（不知火座・俳優）

長崎原爆被災者協議会

いよいよ被爆から40年目を迎えました。「ふたたび被爆者をつくるな」という私たちのねがいをのらせるために、みんなで力をあわせ、核兵器完全禁止と被爆者援護法制定を求める運動をさらに大きく前進させましょう。

長崎市・竹山 廣

反戦平和その未端の泡立ちを鎮めんとして道ゆくわれは

長崎市・平野 妙子

長崎の平和運動を見つめつつギリシア・オリンポスの平和の火を灯す市民運動が今年の私のテーマです。（NBCアナウンサー）

長崎市・今田 斐男

爆死せし父にまみえる顔もなし 無為にすこせし四十年の今 今年こそ核廃絶をと願えども いよいよはげしき核実験の報

外国から

ニュージーランド
W&V・ロビンソン

一九八四年をお元気です。一昨年、御地を訪ねた時の、あの美しいナガサキの朝と、あなたの方のご親切をいつも思い出しています。

ニュージーランドの平和政策が新しいラング政権の手によっていささかなりともまともなものになったのではないかと期待が強まっています。一九八五年がみなさまにとってよい年となりますように。(ハミルトン平和資料センター)

ビツバゲ・金 溶益

新年おめでとうございます。去年の八月、いまとりかかっている小説のために長崎を訪ねた折は、お忙しい中いろいろとありがたうございました。私のナガサキの旅は世界平和に対する私の考えをより強いものにしてくれました。日米戦争の時は東京で刑務所に入っていたので、ヒロシマ・ナガサキの原爆のことをはじめて聞いた時は喜んでいました。でも、今は私はもちろん反核・反戦の世界市民になっています。

(ドウケーン大学)

ケニアとヒロシマ・ナガサキ

鹿児島大学・杉 村 房 彦

ここケニアのモンバサ市からお便りしています。11月2日から2カ月間、文部省の在外研究として、ケニア・タンザニア・ジンバブエ・エジプト、そしてロンドンを歩く予定で、すでにきょうは12月5日、ケニア滞在中と10日間ほどになりました。

この一カ月、ケニア政府の成人教育局のはからいで、首都ナイロビを始め各地を訪ねてまわり、何千人という人びとに接してきました。そこで思い知らされたことのひとつは、ケニア人は大人も子どももヒロシマ・ナガサキを知っているという事実です。

いなかの小学校で群れ集まってくる子どもたちも知っています。一週間前の汽車の旅で同じコンパトメントの客(一九四二年生まれの黒人)は、私が日本人であると名乗ると、「おお、ヒロシマ・ナガサキ」と挨拶を返す、といったぐあいです。政府当局が使わせた公共車の運転手たちは「原爆の時、あなたはどこにいたのか」とたずねます。また、多くの識字学級の生徒(主として母親

その時私は、ひとり心の中で、穴があったら入るべきは誰なのかと、しきりに考えていました。ケニアでの一カ月、さまざまな議論の中で、「もし私が総理大臣なら」というような言い方を三度ぐらいしたように思います。しかし、この原爆問答で彼らが追求したのはたして誰の責任であったのか、ここでは私は「もし私が……」といったたぐいの返事は一切できませんでした。

さきの高官の一人は、とくに被爆者のその後のことを気にしていました。二次被爆の深刻さを話すとき、ゲリラの隊長という風ほうの彼の顔も、ミドル・ティーンの少年が心配するような表情になります。

高度成長の過程で多くの日本人は原爆を忘れていき、証言の会などのごく少数の人びとが反原爆をたたかいつづけている。そこにケニアの人びとがつかまっている。そのつながりの中から、多くの日本人がふたたび反原水爆の大運動に主体的に参加する道は開けないものか、などと考える書きましました。みなさんのご健闘を祈ります。(84・12・5、ケニアより)

長崎の証言の会と私

大津市・中 谷 猛

「長崎の証言の会」編集部の皆様、新年おめでとうございます。証言の会の機関車となって日夜、献身的に活動されている皆様に心から感謝の意を伝えたいと思います。

近年、国内外で反核、平和運動の高揚がみられます。おそらく、今日、わが国において核兵器の破壊力がどのようなものかを知らぬ人は少ない。唯一の原爆被爆国に生きる私たちにとって、このことは原爆・敗戦で亡くなった無辜の民なしに継承され得なかつた貴重な国民的遺産であります。しかし、他方、証言などではしばしば指摘されてきたように、平和への情熱や戦争許すまじの決意が敗戦四〇年の歳月を経る人々の中で希薄化してきているのも事実です。軍事予算が年々増大し、軍需産業も公然化しつつあります。私たちは改めて、眼前の平和にとって脅威となっているもの、また脅威となりつつあるものは何かをしつかり見つける必要があると思います。

昨秋、NHKでの「核爆発による地球凍結」の番組は大きな反響を呼び起こしました。それは人類への警鐘の意味をもっています。核兵器・核爆弾が人類を滅亡させるものであることは多くの人が知識として知っています。だが多くの人は人類の滅亡のことよりも明日のわが身の生活のために働くことで精いっぱい、この危機的状況を実感できぬのが現状ではないでしょうか。いいかえまると利害がらみで日常生活を送っている私を含め多くの人は人類の全滅の危機を実感し難いという弱さをもっています。本当は、かつての時代と異なり人類と私たち一人一人が結びつく、いわば個人が地球を背負って生きている大変な時代が現代だと考えられるのですが、知識として、知った核兵器・核戦争の恐ろしさを日常生活での実感と結びつけないと、平和に立ち向うことは仲々難しいのではないかと。「長崎の証言」の会の諸活動はこの意味で、私にとって誠に貴重なものであります。この会を中心に、活動されている人々、もちろん同様な活動が続けておられる

その他の会の人々の中に現代に生きる人間としての良心の証をみるからであります。秋月辰一郎氏は「私たち被爆者は、三九年前のことを語りつつ、人間の未来を語っているのである」(「証言」第12号)と述べておられます。そうです。過去を語ることは未来につながるのです。語るに値する過去を語ることは、語るに値する未来を語ることに思ひます。証言の運動は混乱する現代社会において未来を切り開く重要な役割を担っていると言えます。

次代を担う青年の教育に従事している一人として、私は証言運動の意味を捉え直し、日本と人類の平和のために、共に歩んでゆきたいと念じています。

(立命館大学法学部教授)

「反核—歌と文学の集い」を企画

二月二十四日

長崎県教育文化会館で—

長崎の証言の会では、一月六日の新年会での話しあいにもとづいて、

- △田部▽講演と発言
- ①「原爆と児童文学」(坂口)
- ②「反核と表現」(山田かん)
- その他、参加者の自由発言。
- 2月24日(日)午後1時~4時半 長崎県教育文化会館(長崎駅前)
- 会費五百円(プログラムほか)
- 特別サインセル(特価発売)
- 主催/反核・歌と文学の集い実行委員会(長崎を伝える会、長崎の証言の会、ほか8団体)
- 協賛/あさき書店・汐文社・ほるぷ出版。後援/長崎平和推進協会、ほか地元各報道機関。

新年座談会

被爆四十周年を歴史の転機へ

—ナガサキの心を語る—

長崎の証言の会

一月六日の核実験抗議座り込みのあと、長崎の証言の会の新年祝賀会がなごさ荘で行なわれ、運営委員など十九名が参加し、新年の展望と抱負を語りあいました。

はじめに内田伯副会長が音頭で乾杯、つづいて秋月会長より一年間の活動をねぎらうと共に、新年の活動のいっそうの奮闘を訴えま

した。このあと末永浩委員の司会で、出席者全員の自己紹介、新年の抱負や決意がのべられました。

今年も草の根からの運動を

秋月辰一郎 新年早々から日米首脳会談があり、米ソ外相会談も始まりですが、草の根の民衆の世論と行動のみが核戦多阻止・核廃絶を実現させる根本の力です。

長崎の証言の会は、この点でもっともねばり強く反核市民運動を

続けてきました。だが、だんだん年をとり、活動には困難も出ています。みなさん、どうか体を大事に、助け合って今年も立派な活動をしてほしいと思います。

内田伯 証言の会は長崎の市民運動の希望の星となっています。一月三日の「長崎新聞」の被爆四十周年特集にもあるように、ことは「千人会員」の実現、そして四十周年にふさわしい証言出版、核実験抗議、援護法運動の推進とともに、証言の会らしい、さわやかな文化活動を展開しましょう。

山本和明 証言活動に参加して十五年目、昨年は「原爆図展」実行委員会に証言の会から派遣されてがんばりました。今年はまず正月からと決意して、核実験抗議の座り込みを駆けこみ参加しました。最近では寝たきりの両親の看護や自分の体力低下で、思うように動けませんが、私たちがなんとか動け

るうちに、できるかぎりのことをしたい。被爆四十周年を反核運動・被爆者運動の決定的な年にしたいと思っています。(拍手)

反核のため一肌ぬこう

鎌田定夫 昨年は三回も寝込むなど体調はよくなかったが、ビキニデー、全国戦災空襲を記録する会、原水禁大会、軍縮週間行事、12・8不戦の集い、年末の九州民教研と自分なりに全力投球したが、原水禁運動をめぐる分裂の危機など、消耗することも多く、苦勞しました。

九民研の記念講演で三上満さんが、「さわやかな疲れを」「一肌ぬこう！」という合言葉を生徒たちに訴えつけてきたと語るのをきいて、大いに教えられました。今年の情勢は内外ともにきびしいが、年末の日ソ共産党の共同声明のように、かなりの意見の対立



はあっても、理性的対話を重ねて、核戦争阻止・核兵器廃絶への合意に到達するとう、この三十年来はじめてといわれる成果も生まれています。これが本当に実効性あるものとなるかどうか、今後の米ソ交渉や国連その他での動きの中で見きわめたいと思います。

この点で一つ言いたいのは、この国際的努力を、どうかして国内における努力、思想信条、党派をこえた反核統一戦線の結果に向けられないのか、ということです。しかし、これは何よりも私たち自身の問題でもある。昨年の「長崎通信」73号で内田さんと私が書いたように、長崎の証言の会が切

りひらいてきた草の根反核運動の原則をさらに堅持しながら、ナガサキ・ヒロシマを原点にする運動を展開する必要があります。

自立と統一、質から量へ、私たちの組織的力は微小だが、証言の会できなくてはできない独自の役割を果たしていきたいものです。そして今年を長崎と日本、世界の歴史の転機とするために、必要なことは何でもやろう。泣きごとやわなで一肌ぬこうと思います。

村上芳治 あの前八月九日、勤め先で被爆し、スリッパはいたまま自宅のある爆心地へはいり、あの地獄のさまをこの目に焼きつけた。『爆心の丘にて』と『ヒロシマ・ナガサキの証言』にも書きましたが、最近の政府の動きにがまんできません。核廃絶のために残りわずかな生命をささげたいと思いますので、よろしく。(拍手)

池松直子 私はいま諫早のW短期大学の図書館で働いています。近ごろつくづく思うのは、だれもが幸福を望んでいるのに、なぜか戦争の方へ戦争の方へと引きずられていくようで、くやしくてなりません。それで、被爆証言の本など、すこしでも平和のために役立つ本をそろえて、若い人たちに読んでほしいと思っています。

ナガサキの語りべとして

下平作江 おとどしの忘年会では、ヨーロッパでの反核証言の旅について報告いたしました。昨年も何回か修学旅行生たちに被爆体験を語りつけ、各地からたくさんのお手紙をもらい、その一部を『長崎通信』や『証言』に紹介してもらいました。

健康も思わしくなく、薬をのみながらの活動ですが、みなさまと一緒に、今年もがんばります。

片岡津代 私は36年間、ただ生きるためにもがいていただけですが、自分の体験を世界の人びとに聞いてもらってから変わりました。『長崎通信』74号にとりあげていただいたように、昨秋、鹿児島の中学生にお話するよう頼まれて出かけましたが、まだ話さぬうちから、校長先生から止められ、本当にびっくりしました。何も政治的な話なんかで済むのに、あんなことになって本当に残念でした。

あとで二人の先生がおわびに來られましたが、あんなことでみんなが引っこみ思案になるのが心配です。みなさんから励ましていただいて、私も気を取りなおし、今年も語りつづけます。(拍手)

(この証言阻止事件をめぐる、しばらく活発な発言がつづき、岡村進、末永、浜崎の各委員は、このような傾向は鹿児島県だけでなく、全国各地にあり、長崎にもその底流があると指摘しました。また秋月会長は、「校長と教員の間の対立はやむをえぬとしても、まず人間として直ちに謝るべきだった。あれは人間の問題だ」とのべました。なお、『証言』12号の編集後記でこの事件のことを知った北海道の読者が、学級通信に取りあげたことも報告されました。)

川崎きくえ 証言運動は核開発

や核戦争に対する歯止めとして大変大事な運動だと思っています。私も『証言』編集の裏方の一人として十数年間やってきましたが、最近の核状況をみると、この四十間の間に人間が幸福になったのか不幸になったのかわからなくなりました。毎日が大変恐ろしい。証言の会ではぜひ長崎の非核都市宣言に取り組んでほしいと思います。

証言の会もいよいよ離陸を

鎌田信子 広島証言の会の横繁さんの年賀状に、「証言誌もいよいよ助走を終えてティク・オフ(離陸)の段階にはいった」と書いてありました。今日こちらへ来る前に、「証言の会も今年には正念場ですね」と言われました。いっ

新年早々から『長崎新聞』に「千人会員実現で停滞打破を」と書かれて、こころで本気に助走から離陸したいものです。(拍手)

岡村美智子 はじめは事務局のお手伝いという感じでしたが、全国の会員・読者の声や反核情報に接して勉強させられ、だんだん責任が重くなってきました。(笑)

事務と財政という自分の分野でがんばりたいと思います。(拍手)特にこないだの総会の記事が大きい新聞に出て責任を感じています。証言の会の活動としては、若い人たちがどういうふうに参加してもらうか、積極的に活動してもらう方法を本気で考えてほしいです。

島袋幸二 鎌田さんに参加している学生です。目下、卒研の最後の追い込みで、船の動揺と抵抗の実験をやっています。卒業を目前にして、やっと長崎がどんな町かがわかってきました。これまで四年近く長崎にいて、ほとんど何も知らなかった。もし長崎に就職できればと願っています。(拍手)

高原直行 私は毎日新聞の長崎支局で原爆報道を担当しています。が、広島と長崎をくらべると、広島の方がじわっと根っこが底辺にのびている感じがすね。今年も六月頃より「被爆者援護法」などの連載が始まる予定です。長崎の被

爆者団体や証言の会の皆さんの協力をお願いします。(拍手)

石田謙二 私は長崎新聞で、おとどしより原爆問題を担当しています。年末に広島商業高校の生徒たちが渡辺千恵子さんと田島治太夫さんを訪問したので取材しました。ところが平和会館の中に博物館が移されることに疑問が出ました。広島では考えられないことだ、というんです。それに今日の核実験抗議の盛り込み見てると、一緒に写真とるために、形だけ盛り込みに参加する観光客もいました。岡村先生はハラがたつから盛り込むのだと語っておられたけど、ここのうのは運動の枠をひろげることにより、矛盾をひろげることになるのじゃないかと思うんです。どうでしょう。

今年も頑固に坐り込みを

岡村進 私は一人の平凡な市民として、また教師として、被爆者と世界中の人びとが核廃絶を訴えているのに、いつまでも核実験をくり返すのに、本当にハラがたつんです。だから、証言の会や被爆教師の会の仲間たちが抗議の坐り込みを決意してから、十年間、雨の日も風や雪の日もずっと参加してきました。これは誰でもできる、もっとも平凡な行動です。

こんな行動をどうみるか、それは人が、歴史が考えてくれると思ってるんです。ただ、あまり肩を怒らせずに、観光客も気があるに参加してほしいのです。最近は大んだん参加者もふえてきました。なかには写真とるため恰好ついただけの人もいるけど、そんな人に軽率なことを許さないような迫力が出てくる、いいのですけどね。

ともかく、核廃絶めざして今年も頑固に坐るつもりです。(拍手)

浜崎均 私も仲間たちが坐り込むのを見て、じっとしておれなくて、毎回かけつけています。最近は今田さんや山川さんがいない時にマイクを持たされ、直接観光客や市民に呼びかけています。雪の日など、平和公園に来る人が少ないときはわびしい気もしますが、核実験が続く限り、長崎市民の反核の意志を表していきたいと思います。

証言運動は、やはり、反核運動の基礎になるものです。証言を繰り返して若し人達に伝えるのが私達平和を求める人間の務めです。今年も自分にできる範囲で証言運動に取り組みしていきます。

末永浩 私は中学校の社会科で世界の地理を教えています。まだ外国に行ったことがないので、去年の夏の海外研修旅行に出しても

らい、十二日間、中国シルクロードの旅をしました。絵はがきなどを展示してみせると、生徒たちは「中国の文化がどれだけのすごいわかった」と喜んでくれました。去年は修学旅行団に33回も原爆を語り、遺跡めぐりも9回やりました。ことは全国からきた通信を「長崎への平和の旅」という文集にまとめる決意です。今田斐男先生もこんど二七〇頁の本を出すという、頑張っています。

児童文学作品の選考の中で

山田かん 昨年末から沙文社の依頼で「原爆児童文学集」への応募原稿を読んでいます。段ボール箱23箱を読んだが、あと一箱50編ほど残って苦労しています。

読んでいておどろいたのは、日常あまり文学など考えておられないような人たちが、しかもお年寄りが多いのです。何か訴えたいという必死の思い、子や孫たちの生き、未来へのメッセージを残したい、という思いがにじんでいます。

文学作品としての巧拙はあるけど、単なる商業出版の企画には出てこないものが出ています。だから選考にもれた作品をどう扱うかが大事です。昭和27年に長崎新聞社が原爆体験記を募集したとき、約三〇〇篇集ったが、入選作六編

が発表されただけで、あとの作品は行方不明になっています。

証言の会としても、この点をふまえて受け皿をつくってほしいわけですね。文学以前の問題として庶民史の中に位置づけ、その体験と反原爆の思いを引きつぐ作業が必要で、これをどう生かすかね。

秋月辰一郎 私は一年に一つか二つ歌をつくっていたが、それが『昭和万葉集』の中に10首選ばれています。私はどの歌会にも属していない、歌詠みの部類にはいない存在なんです。時間がたつてみると、長崎の原爆を詠んだのはすくないのか、こうなります。

『日本の原爆文学』の中にもそういうのが入っている。だから、日本人はやはり長崎からの作品が出てくることを望んでるんです。

そう思っていて、鎌田さんから山田さんの本の出版記念をやるうと言われたときも、もっと広い形でやったら、と提案したんです。

核廃絶への地道な対話を

秋月 被爆四十周年目を迎えて何をするかということですが、私は今のまま修学旅行団に直接的に語りつづけるのはだんだん困難に

□片隅でできることを

京都市・永原 誠
あまりお役に立たないかと思いますが承知いたしました。東京宣言、日ソ両共産党共同宣言という情勢の前進にはげまされて、片隅でできることをとめてゆきたいと思っています。(立命館大学)

□沖縄で核軍縮教育を

那覇市・武居 洋
地方委員お引きうけいたします。出来うる範囲でいたします。去年から琉球大学の教養課程に「核の科学」という総合科目を取り入れ、核軍縮教育をようやくスタートしたところです。新しい年は、敗戦後四十周年、沖縄戦後四十周年の催しを計画中です。去年十一月には市長戦勝利により辛うじて那覇市革新市政を継続することができ、軍国主義昂揚のムードに抗して、平和のための祭典、公開講座、展示など企画中です。

(琉球大学医学部教授)

ことになりました。(拍手)

私は「むつ」問題のとき以来、長崎県漁連や県評、婦人会をはじめ各界の方々と親しくさせていただきましたので、何よりも対話と統一を自分の使命と考えています。とくに米軍基地をかかえる佐世保、今度二〇〇億円かけてパトリオットを導入するという自衛隊基地のある大村などとの連帯を強めて、文字通り非核県宣言ができる状況をつくりだしたいものです。

長崎の反核運動の最大の課題は佐世保と長崎をいかに連帯させ、平和の拠点に変えていくかということです。人情、風俗、産業構造などもかなりちがいますが、アメリカの核基地化されては元も子もない。被爆都市ナガサキの心を佐世保に根づかせる仕事を、とくに重点的にやりたいと思います。

そのためには、昨年の原水禁世界大会の「東京宣言」の普及、核兵器全面禁止署名から始めます。

今日も午前中は数十名の会員たちと市内で呼びかけのピラを配布し、署名を集めました。非常に反応はいいですね。三菱造船の所長や県知事をはじめ、意見のちがう人でも積極的に訪問して、県民の過半数の署名を集めたいと願っています。どうか証言の会の皆さんもよろしくお願いします。(拍手)

新しい地方委員から

□生命のある限り 被爆の実態を

東村山市・永板 昭

私も皆様と同じように「長崎の怒り」を持ち続けています。折にふれ生徒の諸君や市民の皆さんに証言をしています。春夏秋冬を問わず、岡町での野宿、そして被爆前の少年時代の思い出が次から次へと浮かんでまいります。平和を守り続けることが犠牲者への供養と信じ、生命のある限り被爆の実相を訴える決意です。地方委員の件、何もできませんが、折角のご推せんですからお引きうけいたします。(清瀬第二中学校)

